

「医師の過労死」

第5回 医師の働き方改革に関する検討会



**ストップ!
過労死**

東京過労死を考える家族の会

中原 のり子





**ストップ!
過労死**

少子化と経営効率のせいで

「週刊文春」誌の報じられた通り、都内の病院で小児科の廃止が相次いでいます。

私も佼成病院に奉職して12年が経過しましたが、この間、近隣病院小児科の縮小・廃止の話は聞きますが、中野・杉並を中心とする城西地域での新設・拡充の連絡は寡聞にして知りません。

もちろん一因として世界の類のない早急で進展する我が国の少子高齢化をあげることがあります。小・中学校には空を教室が目立ち、都立高校の統廃合の計画も明らかになりつつあります。

しかし、小児科消滅の主な原因は、厚生省主導の医療費抑制政策による病院をとりまく経営環境の悪化と著しいです。生え残りをかけた病院は、経営効率の悪い小児科を切り捨てます。現行の診療報酬制度（出来高払い）では、基本的には薬は使えば使っただけ、検査は実施すればしただけ、診療報酬が上がれば、病院の収入となります。例えば大人の場合にはせいぜい注射アンパレ、本分が通常の投与量と70%です。しかし、体重も小さく代謝機構も未熟な小児では、同じの症例で年齢・体重を勘案しなければ薬用量を決定し、その分量をアンパレから注射器につめかえて細かく、慎重な投与量を設定しなければなりません。

検査にしても協力が得にくい小児の場合には、



**ストップ！
過労死**

少子化と経営効率のはざままで(要旨)

●医療費抑制政策

→病院経営の逼迫

→経営効率が悪い小児科の閉鎖

●診療報酬制度の問題点:小児科の構造的な採算

●頻回の当直による疲労蓄積

→医療ミスの心配

●女性医師の増加

→結婚出産に伴う他の医師の負担



ストップ!
過労死

「当直」は労働ではない！？

労働法規:「当直」=労働がない宿泊

病院の実態:「当直」=労働そのもの

言葉のすり替えがまかり通っている！

EUの判例:「待機時間も労働時間！」



ストップ!
過労死

睡眠不足が引き起こす問題

- 医師の連続勤務・過重労働から引き起こされる過労・睡眠不足から医療事故の発生

(医療過誤の温床・リスクマネジメント)

- 医師の過労と過労死などの生命と健康問題

(労働災害)

- 2009年10月JAMA誌

・深夜手術執刀後同日の手術、医師の睡眠時間が6時間以下の場合のみ合併症リスクが1.7倍に

- 当直明け・連続勤務後の交通事故増加

(米国研修医のデータ)

【壊れゆく医師たち】 岩波ブックレットNo. 718
1963年から2007年までの統計

【年齢集計】

20代	7名
30代	4名
40代	8名
50代	1名
60代	1名
不明	1名

【死亡原因別集計】

脳・心・循環器系疾患 15件

自殺 7件

【科別集計】

研修医 4件

小児科 3件

外科 3件

産婦人科 2件

整形外科医 2件

内科 2件

神経内科 1件

その他3件

医師の過労死による労災申請1

1. 整形外科医、急性心臓死(63年)→公務上認定(70年)
2. 院長代行(60代)急性心不全(87年)→公務上認定(92年)
3. 20歳代外科医、急性心不全(90年)→公務上認定(97年)
4. 外科医(29歳)過労自殺(92年)→労災認定(05年)
5. 産婦人科医(35歳)急性心筋梗塞(96年)→労災認定(99年)
6. 神経内科医(40歳代)大動脈解離(96年)→公務上認定(05年)
7. 麻酔医(30代)急性心不全(96年)→損賠勝訴(07年)、公務災害審査請求中
8. 小児科女性勤務医(43歳)くも膜下出血(97年)→労災認定(99年)
9. 関西医大研修医(26歳)急性心筋梗塞(98年)→労災認定(02年)、労働者として最低賃金の保障(05年)
10. 整形外科医(40代)急性心筋梗塞(98年)→労災認定(03年)
11. 内科医(40代)過労自殺(98年)→労災認定
12. 内科医師(53歳)過労自殺(99年)→公務災害認定(04年)
13. 中原家のケース

2007.11.14 過労死弁護団全国連絡会議集約分・他

医師の過労死による労災申請2

- 14. 研修医(20代)過労自殺(00年)→労災認定(04年)
- 15. 内科医(40代)くも膜下出血(00年)→公務災害認定(06年)
- 16. 嘱託医(30歳)心肺停止(01年)→公務災害認定(03年)
- 17. 内科勤務医(43歳)突然死(01年)→公務災害申請中
- 18. 小児科勤務医(31歳)過労死(03年)→労災認定(07年)
- 19. 外科医(40代)急性心筋梗塞(04年)→労災認定(06年)
- 20. 研修医(20歳)心室細動(04年)→公務災害認定(06年)、損賠継続中
- 21. 離島診療所歯科医師(51歳)過労死(04年)→公務災害申請中
- 22. 奈良の内科勤務医(26歳)過労死(04年)→労災申請中
- 23. 麻酔科女医(20代)過労自殺→損賠二審継続中
- 24. 産婦人科医(40代)脳出血(生存)(06年)→労災認定(07年)
- 25. 女性研修医(20代)過労自殺→労災認定(07年)

2007.11.14 過労死弁護団全国連絡会議集約分・他

ある研修医(女性)のメール

「子ども達を手術で救いたい」と小児心臓外科医を目指していました。
研修当初は、家族にこんなメールを送っています。

【朝はだるくて毎日ブルーなんだけど、みんな親切でやっぱ外科はいいな～ってかんじ】

【一日でいいから休みが欲しいです。

コレが一生続くのかな・・・。 つらいな～】

【なんか医者以外に生きる道はないかと思うから続けているだけで、早くこの苦痛から解放されることだけを願っています。

もうつかれたよ。

頑張れるだけは続けるけど、長くない気がします】

そして、自殺する数日前に母親に電話

【精神的にととても追い詰められているような感じで、余裕がないのがつらい。

最近は患者さんに対してもイライラしてしまって、怒鳴りたくなることもあったし・・・】

2007年2月日本大学女性研修医過労死 年間の宿直回数は77回

姉に話していた

【信じられる？

寝ているときに起こされるんだよ。

しかもたいした病気じゃないの
に来るんだよ】

12日間休んで、復帰する予定の日に自殺

馬車馬の様に働かされている
病院に搾取されている
病院に殺される
小児科医師なんて誰にも感謝
されない職業だ

【愚行です 不眠・不整脈・視力の衰え
精神的にも、身体的にも
限界を超えてしまいました】

新潟市民病院の研修医 木元文(あや)さん(当時37歳)



新潟市民病院女性研修医

木元文(あや)さん＝当時(37)

残業最長月250時間、過労自殺

- 昨年1月に市内の公園で公園の雪の上で自死
- 女性は毎月、過労死ラインとされる月80時間を上回る月100時間以上の残業を繰り返し、最長だった一昨年8月は251時間だった。
- 「気力がない」「病院に行きたくないし、人とも会いたくない」ともらし始めた。
- 医者になんか、なるんじゃないなかった



米国医療を支えるさまざまな職種

日本でも実効性ある医療職導入 & 増員を！

Physician Assistant (PA)

Nurse Practitioner (NP)



Case Manager



病棟秘書(24時間勤務)



IV Nurse



OR Tech



呼吸器療法士



マサチューセッツ総合病院移植外科、ハーバード大学医学部
河合達郎 2013.10.16 日本脳外科学会

〇〇十年前の私です



**ストップ!
過労死**

ありがとうジュンペイ君がまじった